

# えんがわ

第13号

## 企画展

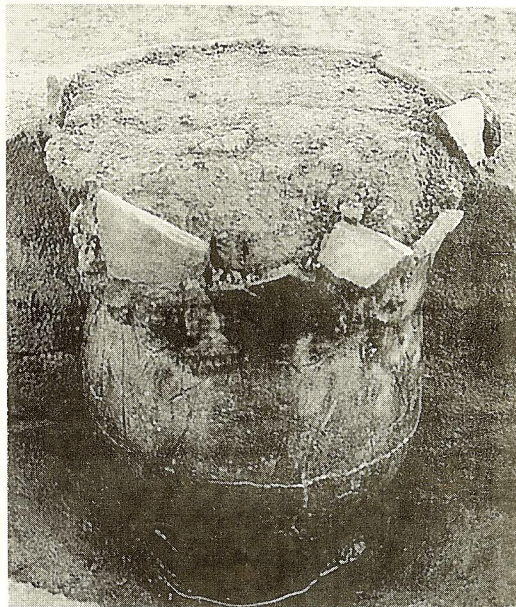
### 遺跡からのメッセージ

#### ～金原遺跡最新出土品展Ⅱ～

平成10年8月13日から10月25日まで

金原遺跡の発掘は平成16年に予定されている埼玉国体のアーチアリー会場である（仮称）金原運動公園の建設に伴う事前の調査として行われています。今までに先土器時代（約14,000年～13,000年前）のナイフ形石器や細石刃、縄文時代早期後半（約7,000年前）の住居跡や炉穴（屋外で火を燃やした跡）、縄文時代中期後半～後期前半にかけての竪穴住居跡や方形柱穴列（掘立柱建物跡）、埋設土器（埋甕）、土坑（貯蔵穴などに用いられた穴）などが多数発見されました。

郷土資料館では金原遺跡発掘出土品の企画展示を8月13日から10月25日にかけて行います。あわせて、遺跡セミナー（講座）や現地説明会を開催し、いにしへの金原遺跡の人々が使った道具などから、郷土宮代の先人の文化を思い巡らしてみたいかがですか。



金原遺跡8号住居跡埋設土器

#### ◆金原遺跡探訪ツアー～見て・聞いて・語り合っで遺跡体感

遺跡セミナー（講座）や企画展示の解説、金原遺跡現地説明会がセットになった遺跡探訪ツアーで、金原遺跡について詳しく知ることができます。

#### ●遺跡セミナー「金原遺跡とその時代～全国の発掘調査事例から～」

講師 熊谷市教育委員会・宮代町史監修者 鈴木敏昭氏

#### ●企画展「遺跡からのメッセージ～金原遺跡最新出土品展Ⅱ～」の展示解説

#### ●現地説明会「時を超えて～金原遺跡現地見学会～」

日時 平成10年9月6日（日） 9：45～14：40 宮代町役場集合

定員 40名（町有バスで移動します。昼食は各自持参）

受付 事前に郷土資料館へ（定員になり次第、締め切らせて頂きます。定員の関係で本ツアーに参加できなかった方々も現地説明会には是非ご参加下さい。）

#### ◆現地説明会「時を超えて～金原遺跡現地見学会～」

発掘された縄文時代のムラの跡が見学できます。また、発掘事務所1階では写真パネルや土器、石器等を展示し身近に見ることもできます。

日時 平成10年9月6日（日） 10：00～11：20

受付 当日10：00までに現地へ集合



## 先土器時代の金原遺跡

金原遺跡に人々が暮らし始めたのは、隣の前原遺跡（現在の前原中学校周辺）と同じころにあたる約 14,000 年前頃からと考えられています。このころは関東ローム層（赤土）が堆積した終末期に当たり、発掘された石器もこの層の中から出土しました。関東ローム層は浅間山などの火山活動により噴出された火山灰が堆積し形成されました。金原遺跡からはそのころの人々が使ったナイフ形石器と呼ばれる皮を剥いだり槍の先に用いられたと考えられる石器が3点出土しています。

約 13,000 年前になると細石刃という約3cm 程の縦長の剥片を鹿の角などの柄の両側に 10 数個並べて取り付けて使用した石器が出現します。この石器も関東ローム層中から出土しました。金原遺跡では細石刃を製作した跡と考えられる遺構が1か所確認されていますが、埼玉地区や北足立地区に広がる大宮台地では発見されることが少なく、宮代町逆井遺跡に続き2例目の発見例です。

## 縄文時代の金原遺跡

縄文時代になると約 7,000 年前から約 3,500 年前にかけての住居跡や屋外で火を使った炉穴、貯蔵穴などの土坑、胎盤等を収納したといわれる埋甕などが発掘され縄文人がムラを造り生活を営んでいたことが明らかとなりました。

金原遺跡で最もムラが大きかった時期は縄文時代後期（約 3,500 年前）で 18



出土した細石刃

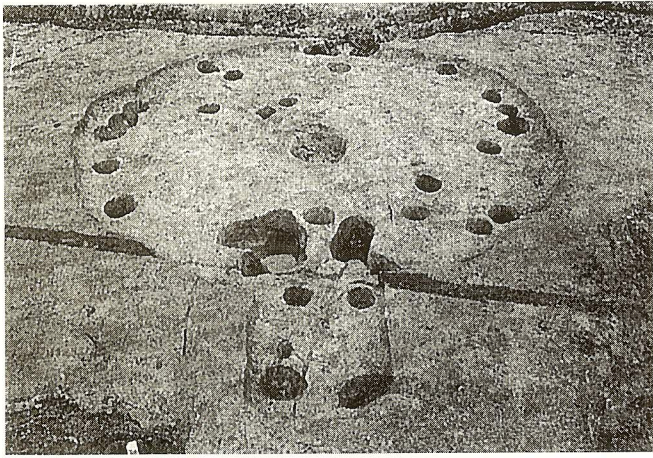


調査風景

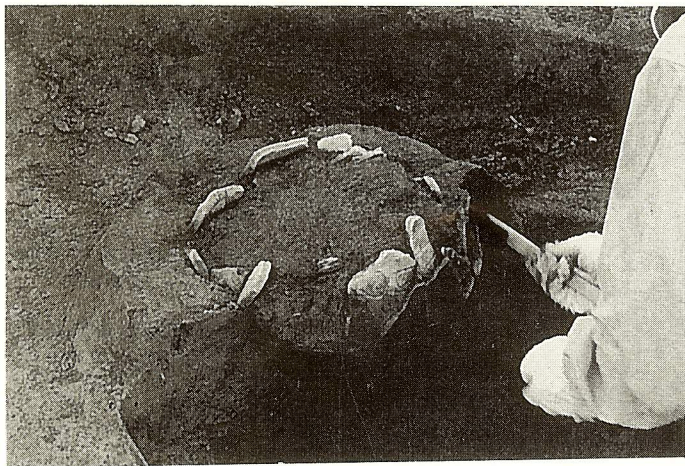


226号土坑出土土器





金原遺跡 7号住居跡



1号埋設土器



石斧の出土状況

軒もの住居跡が湿地（海、沼）に面し半弧状に並んでいました。しかも数軒の住居が重ねてつくられた跡も確認されています。住居をつくり生活するには絶好の場所だったのかもしれませんが。

この頃の住居跡は手鏡のような形をしていて出入り口（玄関）がほぼ南に張り出しています。また、玄関を入ったところには胎盤を収納したり幼児を埋葬したといわれる埋甕が配置されていました。住居跡のほぼ中央付近には煮炊きをするために火を使った跡が発見されています。それより昔の約 7,000 年前には住居内で火を使うことが定着していなかったらしく、現在のバーベキューのように屋外で火を使った跡が住居の周辺などで発見されています。

この他、住居跡の周辺には食物などをたくわえていた貯蔵穴や土器を捨てた穴、墓穴など多くの穴の跡が約 300 基見つかっています。この穴の多くは弧状に並んだ住居跡付近に集中していました。

住居跡が並んでいる少し東側では7本の柱からなる掘立柱建物跡が発見されました。この周囲からは多数の土器も出土しています。この建物跡は竪穴住居跡とは違う性格をもった建物であるといわれています。

また縄文人が狩猟の時に弓矢として矢の先につけて使った矢じりや、穴を掘ったりするときなどに使った石斧や調理の時に使った石皿などが出土しています。

ぜひこの機会に金原遺跡を御覧になり、縄文人の息づかいを感じてください。



